





HIROSHIMA SYMPHONY ORCHESTRA
~Music for Peace~

主催: 西城紫水高等学校・庄原格致高等学校・東城高等学校/広島交響楽協会

助成:  文化庁文化芸術振興費補助金  エネルギー文化・スポーツ財団
文化庁 (舞台芸術創造活動活性化事業)

広島交響楽団音楽鑑賞教室

7/12(火)13:30 開演【庄原市民会館】
指揮: 直井大輔 管弦楽: 広島交響楽団

<プログラム>

- ♪ ヨハン・シュトラウス: ラデツキー行進曲 (約 3 分)
- ♪ バルトーク: ルーマニア民族舞曲 より
“棒踊り”“飾り帯の踊り”“ルーマニア風ポルカと速い踊り” (約 6 分)
- ♪ 楽器紹介
- ♪ チャイコフスキー: バレエ音楽「くるみ割り人形」～ “ロシアの踊り” (約 3 分)
- ♪ グリーグ: 組曲「ペール・ギュント」～ “朝” “山の魔王の宮殿にて” (約 7 分)
～ 休憩 ～
- ♪ ボロディン: 交響詩「中央アジアの草原にて」 (約 8 分)
- ♪ 指揮者体験コーナー(オッフェンバック: オペレッタ「天国と地獄」序曲～カンカン)
- ♪ ビリーブ【全員歌唱】 (約 4 分)
- ♪ ホルスト: 組曲「惑星」～ “木星” (約 7 分)



指揮: 直井 大輔

1971年東京生まれ。武蔵野音楽大学音楽学部器楽科でトロンボーン専攻後、東京芸術大学音楽学部指揮科にて、佐藤功太郎、小林研一郎、H.M.シュナイト各氏に師事。1993年より巨匠 V.フェドセーエフ氏に指揮の手ほどきやアドバイスを受けている。2003年、秋篠宮妃殿下、内親王殿下ご臨席の演奏会で指揮者を務め、2004年には藝大シンフォニカ英国公演に同行。広島交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団などをはじめ、各地の演奏団体に招かれているほか、二期会オペラ等の副指揮者やタレント千秋のレコーディングを指揮するなどその活動は各方面で好評を博している。2004年度、東京芸術大学音楽学部非常勤講師。2005年度、同大音楽学部附属音楽高校非常勤講師。千葉県音楽協会会員。



広島交響楽団

1963年に「広島市民交響楽団」として発足。1970年に名称を「広島交響楽団」とし、1972年のプロ改組以来、国際平和文化都市「広島」を本拠地とする中国地方唯一の常設プロオーケストラとして活躍の場を拓いている。日本各地はもとより、ウィーン、プラハ、フランス、ロシア、韓国などで海外公演も行うなど、各地で平和と希望のメッセージを発信し続けている。現在は年10回の定期演奏会、呉・福山・廿日市・島根での地域定期や「秋山和慶のディスカバリー・シリーズ」、広島市との共催による「音楽の花束」名曲シリーズをはじめ、県内における移動音楽教室、巡回コンサートから各種依頼公演など年間約140回に及ぶ演奏活動を行っている。

● 曲目解説

♪. ヨハン・シュトラウス:ラデツキー行進曲

オーストリア音楽の都ウィーンを中心に活躍した作曲家、ヨハン・シュトラウス(1804~1849年)は、ウィンナー・ワルツをヨーロッパ中に流行らせたことで「ワルツの父」とも呼ばれています。親しみやすくてどこか勇ましいリズムを持ったこの曲は、オーストリアのラデツキー将軍の凱旋を称えてつくられた行進曲と言われています。オーストリアでは勿論の事、世界中で親しまれている名曲の一つ。広島ではラジオ番組「カープ・ナイター」のテーマソングとして長年使われていることでもおなじみです。

♪. バルトーク:ルーマニア民族舞曲

バルトーク(1881~1945年)は20世紀ハンガリーで活躍した作曲家です。祖国ハンガリーの民族音楽に深い興味をもち、各地を巡って民謡を集めて研究しました。そうして集めた数千に及ぶ旋律は、彼の作品のなかに積極的に取り入れられています。この作品もそんな中の一つで、独特の響きを持っています。元々はピアノの曲ですが、オーケストラや吹奏楽にアレンジされ親しまれています。

♪. チャイコフスキー:バレエ音楽「くるみ割り人形」～“ロシアの踊り”

ロシアの作曲家チャイコフスキー(1840~1893年)による、3大バレエ「白鳥の湖」「眠れる森の美女」そして「くるみ割り人形」は、今日でもバレエのレパートリーとしては勿論のこと、その親しみやすいメロディーから世界中で愛されています。ドイツの作家ホフマンの童話を元にした「くるみ割り人形」は、主人公クララの夢の中が舞台。くるみ割り人形が王子様に姿を変え、クララをお菓子の国に招待するというメルヘンに満ちたおとぎ話です。ロシアの踊り(トレパック)では、ロシア農民の勇壮な踊りが、テンポの速いエネルギッシュなメロディーで表現されています。

♪. グリーク:組曲「ペール・ギュント」～“朝”“山の魔王の宮殿にて”

北欧ノルウェーの作曲家グリーク(1843~1907年)。この「ペール・ギュント」は、同じくノルウェーの世界的な文豪イプセンが、ノルウェーに古くから伝わる伝説的な人物ペール・ギュントを主人公として描いた詩劇です。冒険好きの放浪家ペールが、年老いた母オーゼと恋人ソルヴェイグを故郷に置いて、世界中で無謀な冒険を繰り返すという物語。「朝」は最も有名なメロディーの一つ。モロッコ、サハラ砂漠の日の出の情景を、朝の清々しい気分として描いています。「山の魔王の宮殿にて」では、魔王を怒らせたペールが、家臣の妖怪たちに殺されかける。妖怪たちが無気味に詰め寄る場面での音楽。

♪. ボロディン:交響詩「中央アジアの草原にて」

19世紀帝政ロシア時代の作曲家ボロディン(1833~1887年)。本職は医者・科学者として活躍し、科学の分野でも多数の功績を残した事で知られているという。一方で作曲は30歳まで正式に学んだ事がなく、自身の事を「日曜日の作曲家」と称していた。この作品では、多様な民族が複雑に入り組んで暮らしていると言われる、南ロシアのコーカサス地方の草原地帯での、ロシア人と東洋人の交流を描いている。『静かな草原の向こうから聞き慣れないロシアの歌が響いてくる。また一方からは、馬やラクダの足音に混ざって東方の歌の独特なメロディが聞こえてくる。草原を旅する商人たちと護衛のロシア兵。果てしない荒野に行く彼らは長い旅を不安もなく続ける。やがて一行は遠ざかり、ロシアとアジアの歌は融合して一つのハーモニーを作る。その音色は草原へとこだまし消えてゆく…』

♪. ホルスト:組曲「惑星」より“木星”

イギリスの作曲家ホルスト(1874~1934年)は、地球と作曲当時まだ発見されていなかった冥王星以外の、太陽系の7つの惑星に音楽をつけて組曲としました。7つの曲それぞれには、ローマ神話に登場する神々の名前がつけられており、木星=ジュピターには「快樂の神」「快樂をもたらす者」というサブタイトルが付けられています。太陽系の9つの惑星のなかでも最も大きなこの星にふさわしく、華やかで威厳に満ちた曲想となっています。